

DI 調査結果（令和4年1月-3月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『原材料価格の高騰による収益逼迫や部品・材料の供給不足による
生産調整を余儀なくされるなど、業況は一服感がみられる』

【調査概要】

1. 今期(令和4年1月-3月期)の業況調査DI12項目では、「売上高」など6項目がプラスとなり、「原材料価格」など6項目がマイナスとなった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、プラスを維持するも10.4(前回31.3)と減少しており、部品不足等で生産計画に影響が出始めている。また、原料高や需要増等によって急激な上昇が続いている「原材料価格」▲80.8(前回▲84.8)が、「収益状況」▲9.5(前回▲0.8)の悪化を招いている。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」11.8(前回14.6)、「受注残」18.1(前回8.6)、「生産設備」21.2(前回13.7)と、好調を維持している。
3. 来期については、「来期受注」16.5(前回16.7)と引き続きプラスで推移しているが、「来期採算」▲6.5(前回▲2.9)「来期資金繰」▲3.5(前回0.0)と悪化しており、部品入手困難による生産調整や原材料価格の高騰による影響が見受けられる。
4. 「企業経営上の悩み」については、引き続き「人材不足」が35.2(前回30.9)とトップとなっている。「原材料価格」が25.7(前回29.6)と少し落ち着いてはいるものの、収益・資金繰りへの不安材料となっている。
5. これまでの人材不足に加え、原材料価格の高騰による収益逼迫や部品・材料の供給不足による生産調整を余儀なくされており、業況は一服感がみられる。また先行きについてはロシア・ウクライナ問題の影響、鋼材・エネルギー関連の更なる高騰が懸念され、先行きは不透明感が強まっている。

